

## いちご株冷蔵苗の定植時の根量について

### 1 試験のねらい

ダナーの株冷蔵半促成栽培では、育苗中の9月下旬に移植を行い、細根の発生を促して根量の増加をはかっている。しかし、苗の大きさの違いによる移植や定植時の根重が新根発生に及ぼす影響などが明らかにされていない。株冷蔵栽培において剪根(根の切断)処理を行い、生育、収量に及ぼす影響を昭和54年～55年に検討したので、その結果を報告する。

### 2 試験方法

54年度は、8月10日採苗時に苗の大小別に育苗し、冷蔵の入出庫時期に外観上の根量を無処理のはば $\frac{1}{2}$ に剪根処理した。冷蔵期間は11月14日から12月17日とし、12月18日ハウス内に定植し、保温開始は1月7日より行った。規模は1区20株、2区制とした。55年度は、8月23日に採苗を行い、10月1日に移植した苗を無処理のはば $\frac{1}{3}$ と $\frac{2}{3}$ の剪根処理をした。冷蔵期間は11月17日から12月17日とし、出庫後直ちにハウス内に定植した。保温開始は12月26日より行った。規模は1区10株、3区制とした。その他の管理は兩年とも慣行に準じた。

### 3 試験結果及び考察

54年度は、苗の生育は各処理間に差がみられなかった。収量では大苗ほど多かったが、剪根による低下が目立った。これは大苗ほど定植時の根量の影響が大きいとみられる。月別収量では定植時の根量が少ないものほど3月期の収量は低下し、根量と収量の関係は密接に結びついた。また、剪根時期の違いが収量に及ぼす影響は明らかでなかった。55年度は、剪根による苗の生育は各処理間に差がみられなかった。収量は剪根量が多く根重が少ない苗で初期収量の低下が目立ったが、後半の収量は多くなり全収量では差がみられなかった。これは、移植苗では細根が多いため定植時に根がかなり損失しても全収量に及ぼす影響は少ないものと考えられる。

### 4 成果の要約

株冷蔵栽培における定植時の苗の根量が生育・収量に及ぼす影響を検討した。苗の大きさと根量の多少が収量に及ぼす影響は大きく、大苗ほどその傾向が著しかった。しかし、移植した比較的小苗の場合は、初期収量に差がみられたが、全収量では差がなかった。

(担当者 栃木分場 安川俊彦)

表-1 生育及び収量(昭和54年度)

剪根時期		クラウン 径	定植時生体重 g/株			クラウン 径 mm	葉柄長 mm		可販果重 g/株		
入庫時	出庫時		地上部	根	全重		1.22	3.26	3月	4月	計
○	×	} 大	16.9	10.0	26.9	15.4	6.1	6.2	73	81	154
×	○		15.0	10.2	25.2	15.0	6.0	6.1	48	111	159
平均			16.0	10.1	26.1	15.2	6.1	6.2	61	96	157
×	×	大	14.2	18.6	32.8	14.7	6.2	6.5	96	121	217
○	×	} 小	12.7	6.4	19.1	13.8	5.6	6.2	62	99	161
×	○		11.7	6.2	17.9	14.4	5.6	7.3	82	76	158
平均			12.2	6.3	18.5	14.1	5.6	6.8	72	88	160
×	×	小	13.7	11.3	25.0	14.1	6.8	7.6	100	79	179

注. 剪根 ○有, ×無

表-2 生育及び収量(昭和55年度)

剪根時期		剪根 程度	定植時生体重 g/株			クラウン 径 mm	葉柄長 mm		可販果重 g/株		
入庫時	出庫時		地上部	根	全重		2.12	4.14	3月	4月	計
○	×	} 多	11.4	5.1	16.5	9.7	9.3	14.7	48	109	157
×	○		10.7	5.8	16.5	10.6	8.4	14.8	62	101	163
平均			11.1	5.5	16.5	10.2	8.9	14.8	55	105	160
○	×	} 少	11.2	9.3	20.5	10.9	9.1	14.8	81	88	169
×	○		13.1	10.5	23.6	11.2	9.3	14.6	89	77	166
平均			12.2	9.9	22.1	11.1	9.2	14.7	85	83	168
×	×	無	12.4	3.9	26.3	11.8	9.9	14.0	95	70	165

注 剪根 ○有, ×無